英進館　解答速報

# 久留米附設中学校入試　国語

2024年 1月20日実施

国　語

一　問（例）賛成

日高さんは、科学や研究、勉強というものに堅苦しくあてはめて、物事を考えていては、人生はつまらないと述べている。私も賛成だ。なぜなら、身の回りのことに関心や疑問を持ち、仮説を立て、試行錯誤を繰り返しながら答えを追い求めることで、人生が主体的な楽しいものになると考えるからだ。私も目先の勉強だけではなく、身近な疑問を持ち、失敗やまちがいもふくめて楽しく学べるようになりたいと考える。

（例）反対

私は日高さんの考えに反対だ。なぜなら、科学や研究や勉強にとりくむことも必要だと思うからだ。確かに、「なぜ」と自ら問い学ぶことで、人が育つ部分もあるだろう。しかし、そもそも疑問を持つためには、物事についての知識がある程度必要になり、知識を身につけるには勉強が必要だ。また、勉強することでさらなる疑問が生まれ、考えが発展して、人生を豊かにすることにもつながる。だから、私は日高さんの考えに反対だ。

二　問一　①　欠　②　逆　③　視　　問二　①　イ　②　ウ　③　ウ

問三　①　さ〔っ〕ぱ〔り〕　②　そ〔っ〕く〔り〕　③　こ〔っ〕て〔り〕

問四　(1)（例）「辛」は部首であり、「６」は部首以外の部分が六画である〔という意味。〕

(2) ①　エ　②　ア　③　イ

問五　①　根幹　②　拝借　③　講　④　則　⑤　著

三　問一　A　二　B　鼻　C　波　　問二　（例）つらくとも泣かずに国のために戦っている〔こと。〕

問三　エ　　問四　みんな自分の気持ちを押し殺している

問五　（例）駅前で出征する兵士に旗を振ることで、お駄賃としてスルメがもらえ、ひどい空腹をわずかでも満たせると思い、とてもうれしい〔気持ち。〕

問六　Ⅰ　（例）見送るこの子のために戦うと自らに言い聞かせる気持ち

Ⅱ　（例）自分がスルメを食べたい気持ち

問七　（例）戦時中で物が少ない中、空腹を満たすためとはいえ、戦死するかもしれない兵士の出征時に万歳をして見送るという無責任なことをした罪に幼さゆえに気づけず、戦争に加担したことになる〔から。〕

四　問一　（例）変わり続ける〔こと。〕　問二　読み書き　問三　地図リテラシー

問四　（例）リテラシーという語が、ある事柄について知っていて当然だというように感じられる〔から。〕

問五　（例）〔話し言葉は、〕生得的であるとさえ考えられ、獲得するのに特別な訓練を必要としない〔ものであり、〕〔書き言葉は、〕生得的な能力ではなく、獲得するのに長年にわたる習練を必要とし、しばらく使っていなければあっという間に忘却される〔ものである。〕

問六　オ

問七　（例）ピアノと読み書きは、長年の習練によって獲得し、習練を怠れば劣化する点では同じなのに、ピアノが一部の人にしか普及していないのに対して、読み書きはほとんどの人に普及している〔から。〕

問八　イ・エ

【講評】

一　3 年ぶりに 200 字作文が出題された。新聞コラムを読み、筆者の考えに対する自分の意見を答える問題であった。なお、理由も含めて書かねばならず、より説得力のある文章が求められている。

二　語句・漢字の問題。幅広い分野から出題されており、高度な語彙力が問われている。問二は言葉の性質が異なるものを選ぶもので、③は難しかった。

三　黒柳徹子『続　窓ぎわのトットちゃん』から出題された。自伝的小説で、筆者が子供のころの戦争体験が題材となっている。当時の自分の行為を振り返り、幼いときには気が付かなかった自分の行為の無責任さに、大人になってから気付いたという内容であった。記述問題は昨年同様 5 問で例年並みであった。問七の「本文全体」を踏まえたうえで主題を理解し、理由を説明する問題が難しかった。

四　八鍬友広『読み書きの日本史』から出題された。記述問題は昨年度の 8 問から 5 問へと減り、取り組みやすくなっている。問五の記述問題は、しっかりと対比をとらえて書く必要がある問題であった。また、問七の記述問題も、対比をとらえて書く必要があるが、解答の組み立て方が難しかった。なお、大問四は、配点が 40～50 点分ほどあると思われるが、英進館で実施した 11 月の予想模試と出典が完全に一致している。また、設問についても問二はほぼ一致し、問七は完全に一致している。

★今年度は、全体的に書く量は減り、取り組みやすくなったが、高度な語彙力・読解力・記述力・スピードが求められる問題であることには変わりがない。総合力の問われる問題である。